

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：34412

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01045

研究課題名(和文) 初年次生のEQ的大学生基礎力の自己認識を深化させるための教材と教授法の開発

研究課題名(英文) Development of teaching materials and methods to deepen self-awareness of basic academic skills on emphasized EQ of university students at first-year students

研究代表者

横山 宏 (YOKOYAMA, Hiroshi)

大阪電気通信大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：20249452

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、今日の多くの大学生に欠けている「大学生に必要な基礎的な力」に着目した。このことは、知識(IQ)ではなく、心の知能(EQ)の不足を意味していると捉えた。そこで、人間性や基本的な生活習慣をベースとして、ごく普通に学生生活ができるための能力を「EQ的大学生基礎力」と定義し、それを測るテストを開発した。

結果として、「EQ的大学生基礎力アンケートテスト」([入学前用]、[入学後用])を開発し、その実施によって、EQが弱い学生が把握でき、その学生らに自己学習をさせることで、「EQ的大学生基礎力」の自己認識を促す教育手法の可能性が提案できた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we focused on the "Basic academic skills necessary for university students" lacking in many university students today. We grasped this lack of skills as the lack of EQ (Emotional Intelligence Quotient) rather than IQ (Intelligence Quotient). Therefore, based on human nature and basic lifestyle habits, we defined the ability to be able to live a normal student life as "Basic Academic Skills for emphasizing EQ" and developed a test to measure it.

As a result, we have developed "Questionnaire Test of Basic Academic Skills for emphasizing EQ of University Students" (for pre-admission use / for post-admission use). By using this test, we can grasp the weakness of EQ of students. And we have shown the possibilities for development of educational method to prod students toward the self-awareness of "Basic Academic Skills for emphasizing EQ" through self-learning.

研究分野：教育工学

キーワード：EQ的大学生基礎力 社会人基礎力 教授法 プレゼンテーション やる気の4状態

1. 研究開始当初の背景

わが国は21世紀に高学歴社会に近づいた。それは4年制大学への進学率が50%を少し超え、教育社会学者のM・トロウの言うユニバーサル・アクセス時代(全入時代)に入っていることから分かる。しかし、現実には大学から多くの離学者が出ていて、その原因の追究と対策に追われている状況である。

筆者らは、大学での学生の生き方、考え方、順応の仕方、周囲との会話、友人とのつながり、ゼミナールでの会話、就活への心構えなど、いろいろと現実を見聞きしてきた。今、学生の大学への適応性について、何らかの先行的対策が必要であると感じずにはいられない。

EQに軸足を置いた関連研究は、リメディアル教育学会や初年次教育学会において、この数年間にいくつかの報告がされているが、それらは研究段階であり、大学における実践は模索の域を出ておらず、普及はまだまだこれからというところである。

2. 研究の目的

今日の大学には離学者が多い。とかく大学に馴染めない若者が相当数いる。これは、若者に「大学生に必要な基礎的な力」が欠けていることを意味している。今こそ、知識(IQ)ではなく心の知能(EQ)に軸足を置き、人間性や基本的な生活習慣をベースとして、ごく普通に学生生活ができるための「大学と学生社会に適応する上で必要となる能力」を「EQ的大学生基礎力」と定義し、それらを測るテストの実施とそれに応じた教材で教育を行なうことで、学生の自己認識をより良い方向に深化させるべきであると考えた。

本研究で開発する「EQ的大学生基礎力アンケートテスト」による教育手法は、教育工学的にはFF(フィードフォワード)を採用するので、早い段階で大学に適応するための基礎的な力の育成に寄与できるものと考えられる。本教育手法を提案・実践していくことは、大学教育の改善に貢献大である。

3. 研究の方法

(1) まず、研究協力大学が入学予定の高校生に行なう入学前教育で、開発済み初期バージョンの[入学前用]アンケートテストを適用し、結果を判定し、蓄積する。次に、当該生徒の入学後教育で、[入学後用]アンケートテストを適用し、[入学前用]の結果も用いて、基礎力の判定を行なう。その基礎力の充足/不足に応じた「アニメ・漫画的手法を用いた動機づけ・事例解説教材」(YY型:入学前基礎力有り-入学後基礎力有り、NN型:入学前基礎力無し-入学後基礎力無し、YN型:入学前基礎力有り-入学後基礎力無し、NY型:入学前基礎力無し-入学後基礎力有り)で自己学習をさせ、EQ的大学生基礎力の自己認識を促す。

(2) 年度別計画としては、1年目に開発済み初期バージョンのアンケートテストの改良と、4つの型の教材の試作(シナリオ 絵コンテ 完成静止画・動画)を行なう。2年目に改良版のアンケートテストを実施し、本テーマでの学習対象者を把握する。この学習対象者に試作した教材で自己学習をしてもらう。これらの開発では、生徒・学生らの協力を得て、学習者目線に基づいたものとする。

3年目にさらなる改善をしたアンケートテストと教材を使用し、結果を評価し、学協会等で発表する。

(3) これらの成果を踏まえて、「EQ的大学生基礎力アンケートテスト」とその基礎力の充足/不足に応じた教材を用いた教育手法が適用可能であることを提案し、組織として実践を目指す。

なお、本研究では、中学・高校・専修学校・大学・企業・社会人塾等で人材育成に携わる19名(平成27年度の開始時)で研究組織を構成する。

4. 研究成果

(1) 開発済み初期バージョンの大学生基礎力アンケートテストの改良を行なった。[入学前用]と[入学後用]の違いは、小問の文型が「大学に入学したら」に対して「大学に入学したので」などのようになっている。大問は、社会人基礎力やEQなど文献研究の考察を踏まえて、当初の構想通りの4つの型(A~D)となった。A「友だち」は、A-1友だちを作る力(意欲)、A-2他人に話しかけ応答する力(会話力)、A-3他人とつき合う力(交際力)とした。B「目標」は、B-1目的や目標を定める力(設定力)、B-2就職や進学を想定する力(想定力)、B-3自立する心(自立心)とした。C「行動」は、C-1やりたいことを持つ力(希望創出力)、C-2好きなことを知る力(探究力)、C-3こだわりのある心(執着心)とした。D「決心」は、D-1決心をする力/それを守る力(決断力)、D-2ねばり強さ/継続する力/やりぬく力(完遂力)、D-3自立をコントロールする力(自制心)とした。これらA-1~D-3の12区分にそれぞれ小問を3つ配置し、合計36問で構成した。図1に[入学前用]を、図2に[入学後用]を示す。

(2) 入学予定者の調査結果(2016年125名、2017年129名)から、高校生のEQ的大学生基礎力の傾向が把握できた。回答に「Yes」が多い上位の質問は、1位「A2大学に入ったら、友だちを作ろうと思っていますか」、2位「A8大学に入ったら、友だちから誘われたら一緒に行動できると思いますか」、3位「D8大学での勉強は大切だと考え、努力しますか」であった。また、「No」が多い質問は、「D3自分には決断力があると思っていますか」、「D7 怠けたいと思う気持ちを抑えることができましたか」、「D4 決めたことは、今まで、

必ずやりぬいてきましたか」の「自制心、心の強さ、芯の強さ」に関する項目であった。さらに、4つの分類では、D型の「自制心、心の強さ、芯の強さ」の項目が、他の型ABCと比べても、「Yes」は低く、「どちらでもない」と「No」は高い。

大学生基礎力アンケートテスト —入学前の4分野用— Ver2.0			
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
友だちを作る力 (意欲)	A1 友だちを作ることの大切さを知っているから、大学に入ったら、自分から進んで友だちを作りますか。	+1 ~ -1	+
	A2 大学に入ったら、友だちを作ろうと思っていますか。	+1 ~ 0	+
	A3 大学に入ったら、友だちを作る自信があると思いますか。	+1 ~ 0	+
他人に話しかける力、応答する力 (会話力)	A4 知らない生徒に、必要ときに話しかけることができますか。	+1 ~ 0	+
	A5 知らない生徒に、話しかけられたら、会話をできますか。	+1 ~ 0	+
	A6 先輩などに、挨拶や会話をできましたか。	+1 ~ 0	+
他人とつきあう力 (交際力/意思)	A7 大学に入ったら、友だちと自分から進んで、何か企画したり行動したりできると考えますか。	+1 ~ 0	+
	A8 大学に入ったら、友だちから誘われたら、一緒に行動できると考えますか。	+1 ~ 0	+
	A9 大学に入ったら、興味があることに、自分ひとりでなくても参加しますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
目的や目標を定める力 (意欲)	B1 目的を持って大学に進学しますか。	+1 ~ 0	+
	B2 大学での目標を定めていますか。	+1 ~ 0	+
	B3 大学で勉強する目的や目標を定めることができると考えますか。	+1 ~ 0	+
判断や進学を認める力 (意欲)	B4 将来の進路を決めてから、大学に進学しますか。	+1 ~ 0	+
	B5 大学を卒業したら、自分の考えに従って進みますか。	+1 ~ 0	+
	B6 大学を卒業するまでに、就職などの進路を具体的に考えますか。	+1 ~ 0	+
自立する心 (自立心/意思)	B7 大学を卒業したら、何でも自分で決めますか。	+1 ~ 0	+
	B8 大学を卒業したら、親元を離れて生活しますか。	+1 ~ 0	+
	B9 大学を卒業したら、自分の生活費を自分で稼ぎますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
やりたいことを持つ力 (やりたいこと/実行)	O1 大学に入学する前から、やりたいことを見つめていますか。	+1 ~ 0	+
	O2 大学に入学したら、やりたいことを実行しますか。	+1 ~ 0	+
	O3 大学に入学したので、やりたいことを探しますか。	+1 ~ 0	+
好きなことを知る力 (好きなど)	O4 高校時代に好きなことを見つけていましたか。	+1 ~ 0	+
	O5 今、好きなことを見つめていますか。	+1 ~ 0	+
	O6 大学に入ったら、ゆっゆと好きなことを見つめますか。	+1 ~ 0	+
こだわりのある心 (執着心/こだわり)	O7 自分には、こだわりのあるものがありますか。	+1 ~ 0	+
	O8 何かこだわりの心を大切にしていますか。	+1 ~ 0	+
	O9 こだわりの心は、大切なことだと思っていますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
決心をする力、それを守る力 (決断力)	D1 大学に入ったら、やるべきことを早く決心をしていますか。	+1 ~ 0	+
	D2 やらうと決心したことは、それを守ることができますか。	+1 ~ 0	+
	D3 自分には決断力があると思っていますか。	+1 ~ 0	+
知識や勉強、継続する力、やりぬく力 (完結力)	D4 決めたことは、今まで必ずやりぬいてきましたか。	+1 ~ 0	+
	D5 大学に入ったら、欠席せずに受講しますか。	+1 ~ 0	+
	D6 大学に入ったら、やらなければならないことをやりぬきますか。	+1 ~ 0	+
自立心/コントロールする力 (自律心)	D7 思けないと思う気持ちを認めることができましたか。	+1 ~ 0	+
	D8 大学での勉強は大切だと考え、努力しますか。	+1 ~ 0	+
	D9 どんな場合でも、自分は柔軟に対処することができると思っていますか。	+1 ~ 0	+

図1 大学生基礎力アンケートテスト[入学前用]

大学生基礎力アンケートテスト —入学後の4分野用— Ver2.0			
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
友だちを作る力 (意欲/自信)	A1 友だちを作ることの大切さを知っているから、大学で自分から進んで友だちを作りますか。	+1 ~ -1	+
	A2 大学で友だちを作ろうと思っていますか。	+1 ~ 0	+
	A3 大学で友だちを作る自信がありますか。	+1 ~ 0	+
他人に話しかける力、応答する力 (会話力)	A4 大学で必要に応じて、知らない学生に話しかけることができますか。	+1 ~ 0	+
	A5 大学で知らない学生に話しかけられたら、会話をできますか。	+1 ~ 0	+
	A6 大学で先輩や友だちに挨拶ができますか。	+1 ~ 0	+
他人とつきあう力 (交際力/意思)	A7 自分から進んで、大学で友だちと何か企画したり、行動したりしますか。	+1 ~ 0	+
	A8 大学で友だちから誘われたら、一緒に行動できますか。	+1 ~ 0	+
	A9 大学で興味があることに、自分ひとりでなくても参加しますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
目的や目標を定める力 (意欲)	B1 目的を持って大学に進学しましたか。	+1 ~ 0	+
	B2 大学での目標をあらかじめ定めていましたか。	+1 ~ 0	+
	B3 これから大学での目的や目標を具体的に定めることができますか。	+1 ~ 0	+
判断や進学を認める力 (意欲)	B4 将来の進路を決めて、大学に進学しましたか。	+1 ~ 0	+
	B5 大学を卒業したら、自分の考えに従って進みますか。	+1 ~ 0	+
	B6 大学を卒業するまでに、就職などの進路を具体的に考えますか。	+1 ~ 0	+
自立する心 (自立心/意思)	B7 大学を卒業したら、何でも自分で決めますか。	+1 ~ 0	+
	B8 大学を卒業したら、親元を離れて生活しますか。	+1 ~ 0	+
	B9 大学を卒業したら、何でも自分で決めますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
やりたいことを持つ力 (やりたいこと/実行)	O1 大学に入学する前から、やりたいことを見つけていましたか。	+1 ~ -1	+
	O2 大学に入学したので、やりたいことを実行しますか。	+1 ~ 0	+
	O3 大学に入学したので、やりたいことを探しますか。	+1 ~ 0	+
好きなことを知る力 (好きなど)	O4 今まで好きなことがありましたか。	+1 ~ 0	+
	O5 今、好きなことを見つめていますか。	+1 ~ 0	+
	O6 大学に入ったら、これからゆっゆと好きなことを見つめますか。	+1 ~ 0	+
こだわりのある心 (執着心/こだわり)	O7 自分には、こだわりのあるものがありますか。	+1 ~ 0	+
	O8 何かこだわりの心を大切にしていますか。	+1 ~ 0	+
	O9 こだわりの心は、大切なことだと思っていますか。	+1 ~ 0	+
3つのキー	9つの質問	1～5のレベル	割合
決心をする力、それを守る力 (決断力)	D1 大学に入ってから、やるべきことを早く決心をしていますか。	+1 ~ 0	+
	D2 やらうと決心したことは、それを守ることができますか。	+1 ~ 0	+
	D3 自分には決断力があると思っていますか。	+1 ~ 0	+
知識や勉強、継続する力、やりぬく力 (完結力)	D4 決めたことは今まで必ずやりぬいてきましたか。	+1 ~ 0	+
	D5 大学に入ってから、欠席せずに受講していますか。	+1 ~ 0	+
	D6 大学に入ってから、やらなければならないことをやりぬいていますか。	+1 ~ 0	+
自立心/コントロールする力 (自律心)	D7 思けないと思う気持ちを認めることができましたか。	+1 ~ 0	+
	D8 大学での勉強は大切だと考え、努力しますか。	+1 ~ 0	+
	D9 どんな場合でも、自分は柔軟に対処することができると思っていますか。	+1 ~ 0	+

図2 大学生基礎力アンケートテスト[入学後用]

(3)教材の作成方法は以下の【 】～【 】のように構成し、それを基にパワーポイントなどのソフトで作成した。

【 】絵コンテの構成の決定

- a) 学生からヒヤリングした話題を基に作成したサンプル絵コンテ(8画面)から、プロットやエピソードを把握する。
- b) 絵コンテ(8画面)の構成を以下のように定める。

学習対象者は大学生である。
具体的なストーリー、エピソード、プロットがある。
第1画面で始まり、第8画面で終わる。
各画面にその内容を解説する文が記述されている。

【 】作成する絵コンテ(8画面)の仕様の決定(図3)

- a) 8画面の構成は、第1画面(タイトル)からはじまり、『プロット』でつないで、最後の第8画面(エンディングフレーズ)で終わる。
- b) 『プロット』は『エピソード』のつながりとする。『エピソード』は『あるできごと』で『結末』を含むものとする。『あるできごと』は最後の『エンディングフレーズ』とは直接関係がない(なくてもよい)。
- c) 『プロット』は、動機付けを[幸せ/不幸]の組み合わせで構成した5つの盛り上がりパターン(P1~P5)(図4)のどれか1つを採用する。

第1画面	第2画面	第3画面	第4画面	第5画面	第6画面	第7画面	第8画面
タイトル	エピソード①		エピソード②		エピソード③		エンディングフレーズ
やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし	やる気/やる気なし/やる気なし
解説文1	解説文2	解説文3	解説文4	解説文5	解説文6	解説文7	解説文8

図3 画面構成

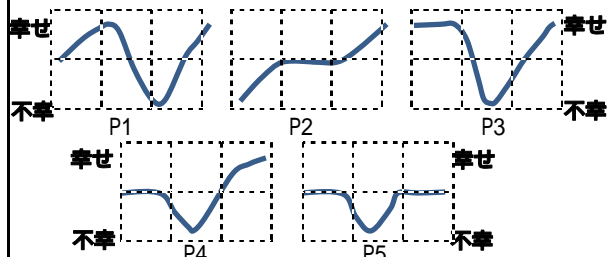


図4 動機付けの盛り上がりパターン

【 】絵コンテを作成する

学生からヒヤリングした話題を基に設定したテーマの中から1つを選ぶ。例えば、就職活動(第1画面「一郎君の就活作戦」、第8画面「やったぜ、就活」)、学生生活(第1画面「次郎君の学生生活」、第8画面「やっぱり、大学生」)、アルバイト(第1画面「三郎君のバイト」、第8画面「それでも、アルバイト」)。

ボランティア(第1画面「四郎君のボランティア体験」、第8画面「すごいや、ボランティア」)などである。

プロットは3つのエピソードで構成するものとし、その3つのエピソード(図3のとと)は、指定した動機付けの盛り上がりパターン(図4のP1~P5)の1つでつなげるものとしている。



図5 作成した絵コンテの例

なお、この絵コンテの作成手法は、代表者が所属する大学で開催された「社会人基礎力を意識した学生によるプレゼンテーション・ワークショップ」(第8回~第10回、2015年12月、2016年6月、2016年12月)に採用され、研究発表もなされた(学会発表)。

(4)前項(3)の手順によって開発した教材(動機づけ・事例解説教材)を、大学生基礎力アンケートテストによって対象者と判明した学生らに自己学習をしてもらい、次のような反応を得ている。そして、研究協力者による分析と判定の支援を受けて、自己認識を促す効果が読み取れた。これらを踏まえて、開発した一連の仕組みをEQ的大学生基礎力の自己認識に有用な教授手法として、大学等のラーニングcommons担当者に提案している。

- ・YY型：入学前基礎力有り-入学後基礎力有り
「何気なくやっていたことを、あらためて、自分の特徴なんだなあ気づくことができた」など。
- ・NN型：入学前基礎力無し-入学後基礎力無し
「怠けたい、なんかかなるなど、何事も避けていたいという気持ちでやってきた。弱いとは思っていなかった」など。
- ・YN型：入学前基礎力有り-入学後基礎力無し
「普通にやってきただけで、何も考えていなかった。入学したらなんかかなると思っていたが考えなおしたい」など。
- ・NY型：入学前基礎力無し-入学後基礎力有り
「考えが甘いという意識はしてきたので、これからは、できるだけ積極的にやっていきたい」など。

(5)今回開発した大学生基礎力アンケートテストの結果から把握した学習者特性の中には、代表者が所属するやる気研究会(任意団体)で着目していた内発性/外発性/能動性

/受動性の軸で説明される動機付けモデルとしての「やる気の4状態」(「やる気」、「やらん気」、「やらされ気」、「やれん気」)の存在を認識するに至った。この4状態は前項(3)教材の作成方法にも採用している(図3、図5参照)。

そして、このやる気の4状態に着目した研究協力者と代表者が、高校生や中学生のEQ的な学習者特性(関心・意欲など)の調査研究にも使える手法として、やる気研究会の協力も得ながら、「Before/After型やる気度調査法」を開発した。これらは、本研究テーマの発展的展開として位置づけられると考える(雑誌論文)。

「Before/After型やる気度調査法」は、イベント(学校行事・課外活動)に参加する前(Before)と後(After)に、Plan-Do-See(PDS)型の質問に「Yes/No」で矢印に従い回答させるというものである。この調査法は、イベントに参加することで心の中に何かが起こり、そのことによる個々の計画的に何かを行なおうとする心理的要因(「やる気」など)が起こることで、その前後におけるPDSを把握することができる調査法と捉えることができる。

図6にBefore時やる気度調査用紙を、図7にAfter時やる気度調査用紙を示す。そこでは、質問に順次Yes/Noで回答してゆき、出口(名義的な結果A~N)に到達し、この到達点に対して、それぞれのコメントを提供するようになっている(決めた目標に向かって、計画を立て、計画に従って実行し、実行したら反省し、不十分なところや改善すべきところは手直しを考え、目標達成をするようにしましょう、など)。

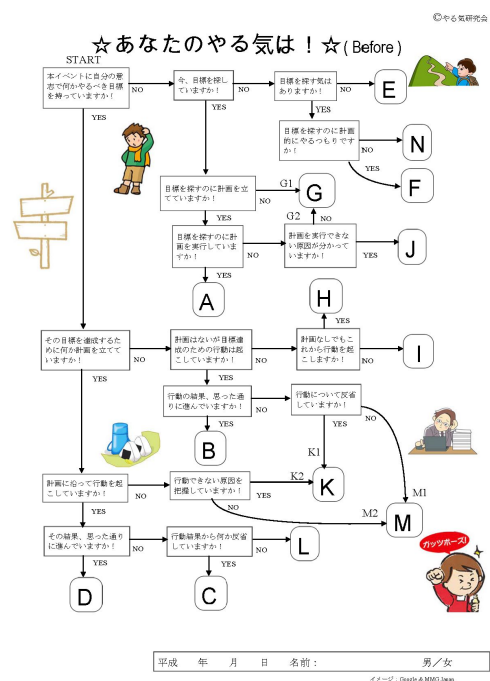


図6 Before時やる気度調査用紙

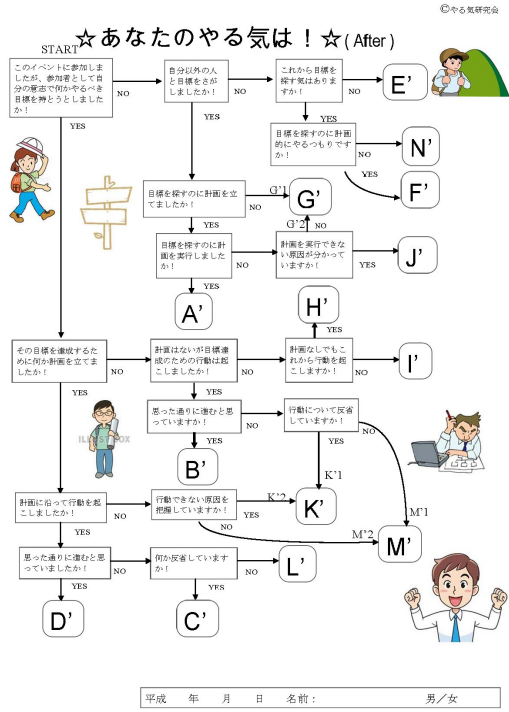


図7 After 時やる気度調査用紙

現在、これらの調査手法は、研究協力者の所属する5大学1中学・高校で実践研究が進められている。そこでは、生徒・学生のそれぞれの調査時の個々の関心・意欲・態度（EQ的基礎力）がまさに観点別評価のごとく知りえる利点があることが分かってきた。特にイベントに対する到達点とその度合いを確認でき、到達点が低い生徒にはイベント後の授業の改善や心理的支援などを行なうための参考資料にこの調査結果を応用できることなどが分かってきた。

5. 主な発表論文等
- [雑誌論文](計1件)
- 横山 宏、増尾 美恵子、NIE クラスにおけるイベント時の生徒のやる気度の考察 - Before/After 型やる気度調査法を用いて - 、大阪電気通信大学人間科学研究、査読有、第20号、2018.3.31、pp.135-143
- [学会発表](計2件)
- Aya INAURA、Hiroshi YOKOYAMA、Hirotaka UOI、Design and Practice of Presentation Training in Open Situation for University Students、Improving University Teaching (IUT) 43rd International Conference、2018.6.27-29、Charles Sturt University (Port Macquarie、Australia)
- 横山 宏、宇治 典貞、中村 勝則、大学生基礎力アンケートテスト、2017年度情報文化学会近畿支部研究会発表論集、pp.41-46、2017年7月2日、大阪電気通

6. 研究組織
- (1)研究代表者
横山 宏 (YOKOYAMA, Hiroshi)
大阪電気通信大学・総合情報学部・准教授
研究者番号：20249452
- (2)研究分担者
中村 勝則 (NAKAMURA, Katsunori)
武庫川女子大学・生活環境学部・講師
研究者番号：10413329
- 宇治 典貞 (UJI, Norisada)
白鳳女子短期大学・こども教育専攻・准教授
研究者番号：80330439
- (3)連携研究者
- (4)研究協力者
浅羽 修文 (ASABA, Nobutake)
荒木 俊輔 (ARAKI, Syunsuke)
稲浦 綾 (INAURA, Aya)
岡本 久仁子 (OKAMOTO, Kuniko)
木村 文俊 (KIMURA, Humitoshi)
岸田 由紀子 (KISHIDA, Yukiko)
工藤 英男 (KUDO, Hideo)
富島 磨由美 (TOMISHIMA, Mayumi)
中谷 陽仁 (NAKATANI, Akihito)
中村 民明 (NAKAMURA, Tamiaki)
中西 祥彦 (NAKANISHI, Yoshihiko)
福田 真規夫 (FUKUDA, Makio)
松永 公廣 (MATSUNAGA, Kimihiro)
森石 峰一 (MORIISHI, Minekazu)
矢島 彰 (YAZIMA, Akira)
安谷 元伸 (YASUTANI, Motonobu)